

令和元年度 第4回 伊勢市障害者施策推進協議会自立支援部会 議事録（要旨）

開催日時 令和元年 11月5日（火）午前 10時～12時

開催場所 伊勢市役所 東館 4-2 会議室

出席委員 市川知律部会長、浦田宗昭委員、竹澤尚美委員、森見典子委員、川口幸生委員、
大田桃子委員、直江敦代委員、中川佳代委員、高岡祐理佳委員

事務局 障がい福祉課 課長

伊勢市障害者総合相談支援センター基幹型職員 1名

傍聴者 4名

部会長挨拶

第4期障害福祉計画の中間年度も中間を過ぎてきている中、活発な議論を行っていききたい。

1. 自立支援部会の運営について

【障がい福祉課より】

- ・自立支援部会の運営状況等を踏まえ、事務局を市と基幹型から、基幹型に一本化することとした。
市と基幹型とは事務局会議にて十分に共有や精査する事とし、その後運営会議に上げさせて頂き、運営会議以降を基幹型で運営していく事とした。

【各委員主な意見】

- ・運営会議はどうなるか？
→基本はフクシア基幹型で運営となるが、障がい福祉課から担当が出るなりさせて頂く事となる。

2. 議題

(1) 各プロジェクトチームの状況について

①地域生活支援拠点チーム

【担当委員より報告】

- ・施策推進協議会への中間報告および同協議会での協議状況等について共有した。
- ・今後のチーム議論にあたり、上記中間報告も含めこれまでの議論がどのように扱われているのかが分かりにくいいため、整備の進捗状況や課題等をみえる形にして、チームの議論と連動させていく形が必要である。
- ・コーディネーターの配置が進捗しない理由を検証する事と、まずは行政でコーディネーターを実施してから委託を検討することも必要ではないか。
- ・24時間緊急対応をしてもらうために、チーム議論を基に行政で検討をしてもらわないといけない。
- ・今後のチーム検討にあたり、行政から現状や方針等の説明をしてもらいたい。

【各委員主な意見】

- ・施策へ報告はしているが、報告以降の具体的な取組が見えてきてない。今年度コーディネーターの予算確保とあるが、配置したあるいは機能を実施した等は見えてきていない。このような中で、来年度末までには一部機能からでもスタートしないといけない状況である。障がい福祉課から現状等をお願いしたい。

- コーディネーターは今年度予算確保し、基幹型に1人配置をとしているが人材確保が難しく、設置に至っていない。コーディネーターの内容については、市と基幹型の認識に大差がないという中で配置が難しいとの状況。今後の配置については、基幹型の受託法人と交渉している。人員配置が難しければ、12月を目途に、基幹型の資料等を整理してもらい、どのような動きができるか整理していく必要があると考えている。
- ・コーディネーターは拠点の機能を担う内容ではなく、設置への中心的役割を担う内容でよいか？
→その通りである。
 - ・コーディネーターが進捗しないのは人材の確保が難しいということが理由か？
それも一つの理由ということのようであった。
 - ・チーム会議にあたっての行政からの説明について、明日のチーム会議との関係はどうか？
→コーディネーターの配置を前提とした市としての整備への素案は持っているもので、それを明日説明させて頂くことは出来る。
 - ・重要な地域の資源である委員が集まってくれているチームなので、市も含めて事務局でしっかり調整頂きたい。
 - ・コーディネーターはどのような人物を想定しているのか？役割の中味を説明頂きたい。
→整備への5つの機能を作っていくためのコーディネーターとして予算確保したものであり、コーディネーターが事業を実施するものではなく、調整等が主な内容になる。整備後の内容については、その後検討となる。

②人材確保・養成チーム

【担当委員欠席につき事務局より報告】

- ・人材の確保から養成および定着にわたり、主に以下の7つのテーマを検討している。今後、優先順位等をつけながら検討していく予定。
- ・中学生への福祉の仕事の啓発として、市内企業等の有志が運営している市内中学2年生へ各種職業人が講義をするというビジネスパーク伊勢に、人材チームも講師参加していく方向で検討中。
- ・就職面接会の開催として、福祉人材センター主催の伊勢での面接会にチームとして開催協力をしていく事の調整中と、効果的な面接会等の検討をしていく。
- ・ヘルパー養成のためのシステムづくりとして、市内大きく不足しているヘルパーの確保のため、福祉人材センター主催の費用助成とともに伊勢で開催している介護職員初任者研修の状況を把握し、伊勢でヘルパー養成研修を開催する効果を確認中。および、現在のヘルパーへの研修体制を検討していく。
- ・人材の評価指標と認証およびその養成研修の仕組み構築として、伊勢市全体としての人材の養成指標とその人材の認証の仕組みと、それらのための研修の仕組みを検討中。チーム外の力を借りることも含めて検討していく。
- ・スーパーバイズ体制の構築として、地域でのスーパーバイズの必要性について現場の意見をまとめていくこと等を検討していく。
- ・交流会や研修会の開催として、現在働く人たちが元気になり質が向上するような機会の開催を、サービス事業所等連携会議の中身とする提案等について検討していく。
- ・事業所の評価指標と認証の仕組み構築として、三重県「みえ働きやすい介護職場取組宣言」の障害分野への拡大について検討していく。

【各委員主な意見】

- ・国でもスーパービジョンを主任相談支援専門員やサビ管更新研修で重点的に取り入れていく事になっており、この地域のスーパーバイザーはどのような立ち位置の人か？人材を育成していく事と絡めて検討頂けると良い。この点は優先順位を挙げても良いと考える。

③就労支援チーム（担当委員より）

- ・今回資料となっている 8 月開催の第 2 回会議においては、まず枠等を決めずに全体から障がいのある方の就労支援に関する課題を出した。その結果、準備期・求職期・定着期と課題を分けて次回以降検討していく事となった。
- ・その後 10 月下旬に行われた第 3 回会議については、今回資料化にはなっていないが、準備期を中心に検討した。この回では、皇學館大学大杉先生も臨時委員として参加頂き、今後も可能な時は参加頂ける予定となっている。準備期の検討まとめとしては、早期発見等に至らず学童期等に支援からこぼれる方がいる事、こぼれて把握しにくくなったひきこもり等の状態にある方が一歩踏み出しステップアップしていく支援が不足している事、教育等も含めた全体的な連携が重要である事、支援者のアセスメント力などの専門性の向上が課題である事などが確認された。
- ・次回は、求職期、定着期の議論をし、今年度中をめどに課題の優先順位付けをしていきたい。

【各委員主な意見】

- ・支援者の専門性としてアセスメント力が必要であるとは感じる。
- ・幅広い検討をしている中、地域アセスメントも必要になるかもしれない。

(2) 自立支援部会 交流会・サービス等事業所連携会議について

【事務局より事務局案を説明】

- ・日時は、12月5日（木）13：00～ 予定。
- ・目的を、交流会は市民と自立支援部会の取組みや地域課題の共有、自立支援部会への理解や協力意識の醸成、地域支援ネットワークの向上等を図ることとし、連携会議は関係者と自立支援部会の取組みや地域課題の共有、参加意識の醸成、資質向上、連携促進、既存資源による地域課題解決力の向上を図る事としている
- ・主催は、自立支援部会で、事務局は運営会議。
- ・場所は、御菌公民館講堂を予定。
- ・対象者は、1 部は市民等を対象とし、2 部を事業所対象としている。市民の中の、まずはある程度関心のある方々から広げていく事と考えている。
- ・内容は、第 1 部では自立支援部会の活動報告等とし、参加者からの意見等はアンケートで聞かせて頂く形としている。第 2 部は、サービス事業所と、今後の連携会議で取組みたい事についての具体的意見交換としている。サービス種別ごとに、訪問系、就労系、日中活動系、児童通所系、居住系と分かれてグループワークと考えている。
- ・アンケート内容は、目的とした事に対しての結果を確認する内容としている。

【各委員の主な意見】

- ・第 2 部の児童グループに居住系の児童入所も入ってもらい、地域と入所が連携取れると良い。入所施設等は地域と関わるのが少ない中、児童通所事業所での時間外の対応状況など地域の実情を地域と入所施設が共有することは、刺激になるだろう。
- 1 種事業と 2 種事業の融合を図れるようなグループ分けについて、今回や次回へ向けて調整頂くこととして、グループ分けは参加者状況と総合して事務局へ一任したい。

- ・参加者への周知はどうか？

→第1部の市民へは、まずは関心のある市民から積み上げていく事としており、サービス事業所に当事者や家族への周知協力をする事、また市内の家族会に郵送等させて頂く事、その他各種相談窓口チラシ設置の協力を頂くこと、および民生委員には直接届けさせて顶きたい。第2部の事業所へは、個別郵送し、およびフクシアホームページへも掲載、また相談事業所へはネットワーク会議でも周知をしたいと考えている。

市の広報や、自治会回覧板で回すことも検討頂きたい。

- ・協議会の活動報告を市民向けにしている所は県内では無い中、この取り組みは評価している。次年度以降も含め、周知の方法も向上していけるように検討頂きたい。
- ・アンケートについて、自由記述欄に選択肢を選択した「理由」を入れてもらいたい。
- ・参加者も協議会の構成メンバーの一員だと思って頂けることが重要。参加者から協議会への委員が選出される等の取り組みを続け、繋がりを感じてもらえる事が重要だろう。
- ・参加者が発言機会がもてるように人数に応じたグループ分けを検討頂けると良い。
- ・会議運営として、集まるだけではなく、意見が集約されるような取組みも検討頂けると良い。

【事務局より論点を追加報告】

- ・第1部でのチーム活動報告内容については、担当部会委員と部会長、事務局とで作成することする形でよいか検討承頂きたい。基本的には、施策推進協議会への報告資料や部会への報告資料を基本に、市民に分かりやすい資料としていきたいと考えている。

【各委員主な意見】

- ・部会の報告会なので、障がい福祉課とフクシアで共有してもらい、チーム活動報告者等と協議頂きたい。資料内容は事務局案の考え方で承する。次年度以降は、資料の内容もこの部会で事前に検討できるようにして頂きたい。

- ・受付開始と運営側打合せ開始時間が同じであるが、そのままで良いか？

→皆さま委員がよろしければ12時集合へ変更させて頂きたい（打合せ開始を12時に変更）。

- ・場所は狭くないか？100名入る事を保証する必要がある。

→今の予定場所で100名確保出来るか、会場の選択肢が他に無いのかも含め再度確認する。

- ・その他、原則事務局に一任とし、論点があれば会長・事務局・伊勢市でその他の詳細は協議するとし、部会長へ一任とする。

3. その他

(1)「伊っ勢の！」の実行委員への部会委員参加について

【事務局より報告】

- ・これまでも部会委員に参加頂いているが、今年度も依頼があり、参加可能か検討頂きたい。

【各委員の主な意見】

- ・部会としては、後援か共催かどちらになるか。

⇒確認させて頂きたい。

- ・所属法人が可能であれば、大田委員を推薦させて頂く。困難であれば、委員参加以外の協力をさせて頂くこととしたい。

(2) 周知など

【各委員の主な意見】

- ・伊勢保健所主催の精神保健連絡会で、松阪厚生病院への見学会などを企画しているので、興味ある方は参加下さい。
- ・サポートステーション事業では、就職氷河期だった方への対応として、対象者が来年度から 39 歳から 49 歳まで拡大される。3 年間限定とされているが、それ以降は現状未定。

(3) 次回自立支援部会

次回予定：日時：令和 2 年 1 月 7 日（火）10 時～12 時

場所：東館 5－3